

“自主創造”のための



Learning Guide

2013

日本大学 FDガイドブック

日本大学での学びの基本がわかる本（保存版）

FD

Faculty Development

学生自身が授業をつくるために

聞き手／法学部4年・伊東里紗さん，文理学部3年・今宮加奈未さん

伊東さん：『FDガイドブック』はどのような目的で作成されたのでしょうか。

牧村センター長：日本大学は、「自主創造」の理念の下，物事を主体的に考え，問題解決や危機管理ができる能力を備えた人材の養成を目指しています。本書は，学生の皆さんがそうした本学での学びの目的を理解し，自ら学ぶことを支援するために作りました。

今宮さん：大学の単位の考え方やGPAの仕組みなど，学生が疑問に思うことが明確に書いてあり，新入生が履修科目を選ぶときに役立ちそうな印象を受けました。

牧村センター長：大学は，高校までに蓄えた知識を生かし，自らの関心や目的に沿って自主的に学修することを求めています。まだ，目標がはっきり決まっていないとしても，本書を参考にしながら，「本学で何を学びたいか」を自分なりに考え，自ら学ぶ姿勢を身に付けてほしいと思います。

伊東さん：私は4年間学ぶ中で，教室で教員の講義を受けるだけでなく，自分から発信し，能動的に動けば授業が充実することを実感しました。

今宮さん：「自主創造」の実現には，自分一人ではなく，同級生や先輩，教職員の方々の力も必要なのではないでしょうか。自分の学びには，周りとの協働が大切だと思います。

牧村センター長：そのとおりです。授業は，学生が参画して初めて学びの場となります。「自分が授業をつくる」という気概を持って，授業に臨んでください。きっと，高校までとは異なる新しい学びの喜びに出合うはずです。



このガイドブックの使い方

このガイドブックは、学生の皆さんの学修環境や学生生活の充実を目的に、主に新入生を対象にまとめた冊子です。

高校までの学び方は、決められた枠組みに沿って行われることが多かったと思います。しかし、大学での学修は、学生が主体的に自らの学修目的や考え方に従って、数多く設定されている科目の中から履修する科目を選択することが求められます。

大学での授業には、講義、演習、実験・実習などさまざまな形態があり、試験は論述式筆記試験やレポートなどいろいろな形で行われます。特に、新入生の皆さんは、こうした高校との違いに戸惑いを感じる事が少なくないでしょう。

そのため、入学時には、オリエンテーションやガイダンスのほか、学生生活上の指導や履修に関する指導が行われますが、入学後にも、学修上のことで疑問を持つことがあるかもしれません。そうしたときには、再び、このガイドブックを開いてください。きっと役に立つはずですよ。



Contents

第1章	日本大学における学び	
	1 大学で学ぶということ	4
	2 “自主創造”とは	6
	3 日本大学で学ぶということ	8
	4 日本大学を卒業した証し	12
第2章	履修登録とシラバス	
	1 時間割と履修登録	14
	2 シラバスの活用	15
第3章	授業の形態と受講	
	1 講義	18
	2 演習（ゼミナール）	25
	3 実験・実習・実技	28
第4章	成績評価	
	1 成績評価と単位	32
	2 必要な学修時間	33
	3 GPA制度	36
	4 授業評価	39
第5章	図書館の活用	
	1 図書館の活用場面	40
	2 日本大学蔵書目録横断検索システム	44
	3 オンラインデータベース・電子ジャーナル	44
	4 文献複写の相互サービス	45
	5 デジタル・ミュージアム	45
第6章	快適な学修環境の整備	46
レポート	学生&教職員による意見交換会 “自主創造”型の学びを体現するために	48

日本大学における学び

1 大学で学ぶということ

学ぶ主役は学生の皆さん

大学で学ぶには、教員の指導を受けるだけという受け身の姿勢ではいけません。学修[※]の主体者である学生の皆さんが「自ら学ぶ」という積極的な意志を持つ必要があります。

社会的には、大学生になると、未成年であっても自己責任が問われます。授業では、高校時代のように固定したクラスではなく、履修科目により教室が変わります。一番変わるのは、学ぶ姿勢です。大学生では、高校までの受動的学習（passive learning）から能動的学習（active learning）へと変わります。また、初年次の学修への姿勢が今後の大学生活へ強く影響を与えます。

学修と学習

「学修」とは、大学で“学び”，教育課程を“修める”こと。学部等ごとに定められた「教育研究上の目的」を達成するために学ぶ行動を指す。知識や経験を蓄える「学習」とは区別して用いられる。



学生の皆さんには、「学修の主体は自分自身である」と強く認識することが求められます。

大事な主体性と目的意識

あなたが日本大学に入学した目的は何でしょうか。自分自身の教養を高めたり、技能を身に付けたりするためではないでしょうか。学生生活で学び、修得したものを卒業後の生活に反映させ、充実した人生を送るとともに、そうした生き方を通して社会に貢献できる人間に育ってほしいというのが教職員の一致した願いです。

何のために大学に入学したのかをあらためて考えてください。何となく入学し、漫然と所定の修業年限*を過ごすのと、入学時から「自ら学ぶ」という主体性を持って学修するのとでは、卒業時における人間としての力が全く違うものになります。

大学に入学したことの意味を自分自身に問い、目的意識を持って、自分自身のために「自ら学ぶ」という強い自覚の下、学生生活を送ってください。

修業年限

教育課程を修了するために必要な学期間。在学することのできる「在学年数」とは異なる。

COLUMN

表紙の“FD”って何？

FDは Faculty Development の略で、「教育内容・方法等をはじめとする研究や研修を大学全体として組織的に行うこと」を意味します。

具体的な取り組みとしては、教員の研究能力や教育能力の開発、教育システムの開発（カリキュラム、授業評価などのしくみをつくること）、組織開発（教育研究組織などをベストな形にすること）が挙げられます。

日本大学では、FDを「自主創造の理念の下に日本大学を取り巻く外的諸要因をも分析して、学問領域単位（学科・専攻等）での教育プログラムを常に見直し、それを実行するため、教員が職員と協働し、学生の参画を得ながら組織的に取り組む諸活動」と定義しています。

FD活動を全学的に推進するため日本大学FD推進センターを設置し、さまざまな活動をしています。

2 “自主創造”とは

日本大学の「目的及び使命」

日本大学は、「日本大学学則」（第1章第1節）に「目的及び使命」を、次のとおり明示しています。

「日本大学は、日本精神にもとづき、道統をたつとび、憲章にしたがい、自主創造の気風をやしない、文化の進展をはかり、世界の平和と人類の福祉とに寄与することを目的とする。

日本大学は、広く知識を世界にもとめて、深遠な学術を研究し、心身ともに健全な文化人を育成することを使命とする。」

この「目的及び使命」は、時代の推移に即応して数回の改訂を経ていますが、その淵源は、明治22（1889）年に創立された本学の前身である日本法律学校の設立主意書に求めることができます。

日本大学の教育理念「自主創造」

平成19（2007）年度には、本学の新しい教育理念を「自主創造」とするとともに、ロゴマーク「N.」（Nドット）と、キャッチフレーズ「あなたとともに」と「100万人の仲間とともに」を定めました。

“自主創造”とは何かをまず考えてみましょう。そして学年が上がったら、また考え直してください。きっと社会に出てからも、この“自主創造”の理念が人生



自主創造
日本大学

あなたとともに
100万人の仲間とともに

の礎となってくれることと思います。

「自主創造」を新理念としたのは、学則の「目的及び使命」にうたわれていることに加え、「自主創造」の気風に満ちた人材の養成が今まさに社会で求められているからです。21世紀が知の世紀と強調され、その知は「積極的な知」、つまり、「自主創造の知」であり、国際化*に対応できる人材の特性が「自主創造」であることによります。本学でそれぞれが学ぶ領域や活動体験を生かし、「自主創造」のできる人材の養成を目指します。

ロゴマークは、日本大学カラーの「緋*」色を使用し、頭文字「N」を力強く躍動感のある書体で表しています。「N」の横のドットは、建学の精神・理念である「日本精神」「日本の伝統・文化の尊重」「個の尊重」とともに「輝く太陽」を意識しています。

キャッチフレーズの「あなたとともに」と「100万人の仲間とともに」は、愛情を込めた連帯感を表現しています。“日大人”100万の絆とパワーを表し、他の大学にはない本学の特色を打ち出したものです。

なお、各部科校*では、本学の「目的及び使命」「教育理念」に基づき、それぞれ独自の「教育研究上の目的」を策定しています。所属する学部等のホームページを確認してください。



国際化

経済や環境問題など、人間の活動や考え方を世界的規模に広げること。

緋色

濃く明るい赤。裏表紙のロゴマーク参照。

部科校

日本大学が設置する大学院・学部・通信教育部・短期大学部・高等学校・中学校・幼稚園および専修学校を総称した呼称。

3 日本大学で学ぶということ

自ら考え、判断する力

大学では、専門教育科目だけでなく、知識人として必要な一般教育科目や総合教育科目を広く学びます。また、大学での学びは、教員の講義や教科書・参考書の内容を正しく理解することにとどまりません。むしろ、**自らが考え、判断する力を養う**ことが大切です。高校までは、ともすると受け身の学習姿勢が主でしたが、大学では主体的に学ぶ積極性が特に求められます。

特に、日本大学では、ほかの学生や教職員の人格に配慮して行動できる人材の養成を目指しています。また、自ら学び、自ら行動し、そして自ら創造できる、すなわち、「自主創造」の能力を持った人材の養成を目標としています。ぜひ、知的好奇心を持ち続け、積極的に課題に取り組むようにしてください。

大学では、学年を追うごとに専門教育科目が増え、それに伴って、より多くの知識が必要となります。そのため、本格的な専門教育科目を学修する準備段階として、なるべく早期に、できれば初年次修了時までには基礎学力を身に付けることが必要です。

さらに、国内はもとより諸外国で、より良い人間関係を築くためには、日本語・外国語の語学力が不可欠であり、コミュニケーション力を身に付けなければいけません。それらを学ぶことが、人間性の向上にも深く関わっているからです。



外国人留学生と交流する日本人学生。

学びをサポートする種々のしくみ

日本大学は、学生の学びをサポートする種々の体制を整備しています。初年次には、リメディアル教育科目*、スタディスキルズ*等、大学における学修への橋渡しとなる科目を設置しています。それとは別に、学部等によっては学習支援センターを設け、基礎学力の向上を積極的にバックアップしています。また、学生相談室には、インテーカー*や相談員が随時待機していて、学生生活全般についての相談ができます。さらに、オフィスアワー*では、各教員が担当する科目の質問や種々の相談に応じています。

日本大学の学生であることを自覚するとともに、これらのサポートを有効に活用し、より充実した学生生活を送ってください。

リメディアル教育科目
補習教育科目。大学教育を受けるために必要となる基礎的な知識を学ぶ。

スタディスキルズ
ノートの取り方、レポートの書き方、資料の探し方など、大学での学びに必要な学習方法や、専攻分野特有の専門的な学習技術を身に付ける科目。ウォーミング学習として位置付けられる。

インテーカー
受理面接者。依頼者に会って内容を把握し、最適な相談者や機関を紹介する。聴く技術、把握する知識があり、良い関係づくりができる人。

オフィスアワー
下のコラム参照。

COLUMN

オフィスアワー

オフィスアワーは、学生の皆さんが教員に聞いてみたいことや、相談したいことがあった場合、**直接、教員と話ができる時間**です。基本的に、疑問点などがあればいつでも教員を訪ねてよいのですが、教員も授業のほかに会議などで、研究室に不在で対応できないこともあります。あらかじめ設定されているオフィスアワーを利用すれば、こうした問題は解消されます。

学生の皆さんは、シラバスなどに記載されている各教員のオフィスアワーの時間と場所を調べ、気軽に教員を訪ねてみ

てください。授業や事前学習の疑問点解消のため、積極的に活用するとよいでしょう。



オフィスアワーに、先生の研究室を訪問し、相談する学生。

日本大学における学修

経済学部経済学科3年 松本直



高校生の頃、為替、貿易や景気などの経済問題は自分には縁遠いものだと思っていました。しかし、経済学部に入学後、1年次の必修科目である「マクロ経済学」と「ミクロ経済学」などを受講し、経済問題を考える上で土台となる理論を学ぶと、自分なりの意見を持てるようになりました。今でも、発展的な授業を受けて分からないことがあれば、この二つの授業を振り返るようにしています。

2年次からは、6つのプログラムのうち「国際経済プログラム」に進み、発展途上国の経済開発を研究するゼミに入りました。ゼミは、教授の講義を一方的に聴くスタイルではありません。学生が2人1組になり、テキストの要旨をレジュメにまとめて発表する授業が中心です。発展途上国に関する新聞記事を切り抜き、自分の考えを発表する時間もあります。学生主体で授業が進むので、自分たちの力で学びを形作る面白さを日々感じています。

ゼミ以外でも、授業ではよく意見が求められます。2年次の必修科目「アジア経済論」では、毎回、授業の終わりに「理解度テスト」が行われ、10分間で問題の解答とテーマに対する自分の考えをまとめます。また、グループディスカッショ

ンの時間もあります。他の学生の意見を聴くと刺激になります。自分の意見を論理的にまとめ、相手に的確に伝える力は、社会に出たときに必要なスキルです。大学はそうした力を身に付けるための場だと思っています。

授業やゼミで学んだ内容をより深めるためには、予習・復習が欠かせません。私は集中して勉強できる図書館を活用しています。2年次には、意図的に授業と授業の間に空きをつくる時間割にし、図書館に通いました。課題だけでなく資格の勉強も行い、簿記2級の資格を取得しました。現在はTOEIC®の勉強中です。

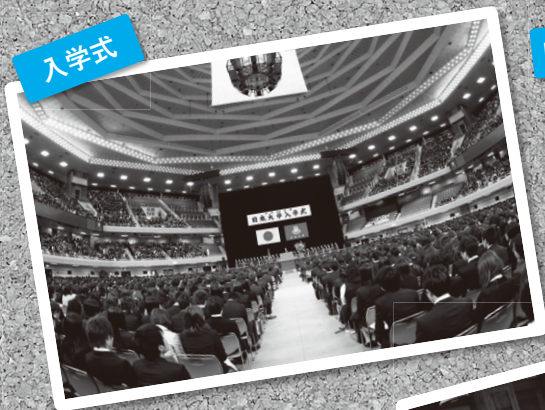
卒業後は、発展途上国の開発に関わる仕事に就くのが目標です。夢を叶えるために、授業やゼミでの学びに力を入れることはもちろん、資格取得などを通して自己研鑽していきたいと思っています。



経済学部本館1階にある読書コーナー。自由に学習をすることができる。

※学年は取材時（2012年度）のものです。

入学式



日本大学のシンボル 桜



海外サマースクール



学生食堂



授業風景



卒業式



4 日本大学を卒業した証し

学位の授与

学位とは、大学を卒業した人や大学院の課程を修了した人に対して授与される称号です。日本大学では、「日本大学学則」において、学部等によって定められた修業年限に達し、所定の授業科目および単位を修得して、卒業した学生に「学士」（学部）あるいは「短期大学士」（短期大学部）の学位を授与するものとしています。

学士および短期大学士の学位は、「学士（〇〇〇）」のように表記され、（〇〇〇）の箇所には専攻分野の名称が入ります。例えば、法学部を卒業すると「学士（法学）」の学位が授与されます。

卒業と同時に学位を授与する大学では、いわゆる“卒業証書”のことを「学位記」といいます。日本大学では、日本大学全体で行う卒業式とは別に学部等ごとに学位記授与式を行って、卒業生に「学位記」を授与します。

このように、本学から授与される学位は、学部等ごとに定めた「教育研究上の目的」の下、本学において特定の専門分野を学修し、一定の教育課程を修めた証しとなるものです。



COLUMN

日本大学の歴史

学祖 山田顕義



明治22(1889)年	10月	日本法律学校創立
明治26(1893)年	7月	第1回卒業式を挙行
	12月	校友会を結成
明治31(1898)年	3月	高等専攻科を設置し、卒業生に日本法律学士の称号を授与
明治34(1901)年	10月	高等師範科(現文理学部)設置
明治36(1903)年	8月	日本法律学校の組織を改正し、校名を日本大学とする
明治37(1904)年	3月	専門学校令による大学となる
	3月	商科(現経済学部ならびに商学部)設置
明治39(1906)年	8月	初の留学生を欧州に送る
大正3(1914)年	4月	「建学の主旨及綱領」を制定
大正9(1920)年	4月	大学令による大学となる
	4月	初めて女子入学を許可
	5月	校歌を制定
	6月	高等工学校(現理工学部)設置
大正10(1921)年	3月	法文学部に美学科(現芸術学部)設置
	4月	東洋歯科医学専門学校(大正5年創立)を合併(現歯学部)
	9月	大学色を「紅」に決定
大正11(1922)年	10月	日大新聞(現日本大学新聞)創刊
	3月	大学旗を作製
大正14(1925)年	3月	専門部医学科(現医学部)設置
	3月	大阪に日本大学専門学校(現近畿大学)設置
昭和4(1929)年	5月	新校歌を制定(現校歌)
昭和10(1935)年	10月	日本大学本部・図書館竣工
昭和13(1938)年	10月	創立50周年記念式典挙行
昭和18(1943)年	5月	農学部(現生物資源科学部)設置
昭和22(1947)年	3月	専門部工科(現工学部)を福島県郡山市に移転
昭和23(1948)年	11月	通信教育部を設置
昭和24(1949)年	4月	新学制による大学となる
昭和25(1950)年	4月	短期大学(現短期大学部)設置
昭和27(1952)年	2月	工業経営学科(現生産工学部)、薬学科(現薬学部)設置
昭和33(1958)年	6月	日本大学講堂設置
昭和34(1959)年	9月	「目的および使命」を改訂
	10月	創立70周年記念式典挙行
昭和46(1971)年	4月	松戸歯科大学(現松戸歯学部)設置
昭和54(1979)年	4月	国際関係学部を設置
昭和57(1982)年	7月	日本大学会館設置
平成元(1989)年	10月	創立100周年記念式典挙行
平成6(1994)年	10月	総合学術情報センター設置
平成19(2007)年	6月	教育理念を「自主創造」と決定
平成22(2010)年	6月	桜門会館設置



(広報部大学史編纂課)

履修登録とシラバス

1 時間割と履修登録

履修のチェックポイント

日本大学は、学部・学科ごとに教育活動の成果として保証するディプロマ・ポリシー*を定めています。これと整合性のある具体的な学びの体系が、カリキュラム*です。

この中心をなすのは、卒業までに必ず修得しなければならない必修科目であり、それぞれの学科や専攻の核となる科目です。必修科目以外には、選択必修科目、選択科目などがあり、さまざまな分野の科目が設けられています。年度ごとに、どの科目をどのように履修するかは、一定の要件の下、個々の学生の自主的な判

ディプロマ・ポリシー

卒業認定・学位授与に関する基本的な方針。

カリキュラム

学部等ごとに定める「教育研究上の目的」などを踏まえ、具体的な教育内容ならびに学修・教育方法等を、総合的かつ体系的に計画したもの。「教育課程」ともいう。

COLUMN

学年制

「学年制」とは、各学年での教育課程を修了し、進級・卒業する「学年進級制」を採る方式のことです。学年によって定められた科目の単位を修得し進級判定されなければ、進級できません。

「学年進級制」は、卒業時に国家試験に合格し国家資格を取得する必要がある

医・歯・薬系の学部・学科が採用しており、日本大学では、医学部、歯学部、松戸歯学部、生物資源科学部（獣医学科）および薬学部がこの方式を採っています。

なお、詳細については、各学部の『学習要項』等を参照してください。

断に基づいて決められます。

選択必修科目や選択科目は、多様な学問の方向性に対応できるように工夫されています。自分自身で勉学の目的・方向を定め、それに応じて時間割を組み立てましょう。必修科目、選択必修科目（および段階制科目）、選択科目は、それぞれが所属する学科、コース、または自分自身の学習目的などに応じて履修登録*することが望ましく、そのために、次の点に注意してください。

- (1) シラバスで授業科目の概要を理解する。
- (2) 必修科目は定められた履修年次に必ず履修する。
- (3) 学科別専門教育科目と他の科目（一般教育科目・総合教育科目、外国語科目、保健体育科目、共通選択科目等）のバランスをとる。
- (4) 科目数および曜日・時限を適切に配分し、学習に無理を来さない。

2 シラバスの活用

各科目の詳しい授業計画

シラバスは、**授業の概要を理解するためのもの**です。科目ごとに、授業期間全体を通じた授業の進め方や各回の授業内容が示されています。履修する科目を選ぶ際の基本的資料にもなります。履修登録の際には、「授業のねらい・到達目標」「授業の方法」などをよく読んで、参考にしてください。

シラバスには、**各回の授業に求められる「復習」と「予習」**についての具体的な指示も書かれています。履修科目のシラバスに書かれた「復習と事前学習」の内容を参照し、担当教員の指示をよく聴いて、復習と予習に十分な時間を割くよう心掛けましょう。

履修登録

当該年度（学期）ごとに履修する科目を選択・確認し、学部等ごとに定められた方法に従って期間内に登録すること。履修登録の方法は学部等によって異なるが、ウェブによる登録方法が増えつつある。

理系科目シラバスの例 (実際のシラバスを一部改変しています)

●授業のねらいを事前に理解することはとても重要です。常にこの点を意識した上で授業に臨みます。

●各学科のカリキュラムによっては、基礎科目から順に積み上げる形で修得するシステムになっているので、指定された学年の科目を着実に履修していくことが重要です。

●「必要な学修時間」に記載のあるように (p.33 ~ p.34), 前回授業の復習と毎回の授業計画に沿った予習が重要です。

●毎回の授業のテーマと内容、重要なキーワードなどが記載されています。授業の進捗度と常に照らし合わせることが大切です。この計画に従って授業は進められますが、受講生の理解度によって計画の一部に変更もあります。毎回の授業に注意深く臨みましょう。

●授業中に紹介された参考書は、図書館で借りるなどして積極的に目を通すようにしましょう。入手が難しい場合には、担当教員に相談してください。

●記載された時間帯には教員が研究室などに在室しているので、授業の質問や相談が可能です。ただし、この時間帯以外に相談ができないわけではありません。気軽に相談するようにしてください。

●「科目名」は比較的、幅広い学術分野の名称がつけられることが多いのですが、授業テーマには具体的に特に関を取り上げるのが記載されています。

科目名	環境変動学 2	2 単位	必修
□□□□学科		2 年	前期
教員名	○○○○		
授業テーマ	気候変動とその影響		
授業のねらい・到達目標	気象・気候データの解析により明らかにされる大気環境について理解し、気候変動の要因について考察する。気候変動が社会生活に及ぼす正と負の影響について修得することを到達目標とする。		
授業方法	視覚的な理解を目的に液晶プロジェクターを活用し、板書を中心とする講義形態で進める。授業の各回のテーマについて、受講生が自らの言葉で説明できることを目標に講義を展開する。		
履修条件	「基礎環境科学」が修得済みであること。		
復習と事前学習	前回授業のまとめのレポートを作成し、毎回提出すること。下記の授業計画を参考に、教員の指示に従い予習しておくこと。		
授業計画			
1	授業のテーマ・ねらいと進め方		
2	歴史時代の気候変動 (異なる時間尺度における気候の変動特性)		
3	古気候の復元 (同位体の利用、花粉分析)		
4	観測時代の気候変動 (観測データの検証)		
5	気候変動の自然的・人為的要因 (モニタリングの重要性)		
6	局地気候・小気候 (逆転層の形成、ヒートアイランド)		
7	大気候 (地球の風系、海流)		
8	気象データの解析 (必要な統計手法)		
9	気候の季節性と気候区分 (世界の植生分布)		
10	大気環境の実態 (降水量・気温から読む地球の乾湿)		
11	大気環境の予測 (基礎資料とその読取)		
12	気象災害 (豪雨・旱魃、熱波・寒波)		
13	大気大循環 (モデル化の試みと問題点・課題)		
14	地球規模の大気環境問題 (地球温暖化の現実とシナリオ)		
15	総括		
教科書	使用しない。関連するプリントを授業中に配布する。		
参考書	講義の中で紹介する。		
成績評価の方法及び基準	定期試験 70%・授業内試験 30% [合格は総合評価 60 点以上]。 達成度評価基準 (括弧内の数字は授業計画の講義番号) : 1. 大気環境の形成要因について理解している (2-5)。 2. 気候変動の解析手法について理解している (6-10)。 3. 気候変動が及ぼす影響について理解している (11-14)。		
オフィスアワー	火曜 9:00~12:30、水曜・金曜 13:00~17:00 (X-123 研究室)		
備考	質問には、メールも活用してください (abo@nihon-u.ac.jp)。		

日本大学□□学部

●成績評価に関わる重要な項目です。初回の授業に担当教員から説明があるので、確認しておきましょう。

■文系科目シラバスの例（実際のシラバスを一部改変しています）

●担当教員ごとに同じ科目でも教える内容に若干違いがあります。特に、社会科学は理論、制度、歴史、現状を総合的に学ぶとともに、分析手法の習得も必要となります。教員によって個性が出るので、授業目的をよく読んで、自分が履修したい内容の教員を選びましょう。

●授業目的に沿って何を事前に学ぶべきかが示されています。きちんと読み、指示に沿って準備してから出席してください。

●どのような姿勢で講義に参加し、自己学習を進めておくべきかが分かります。最初の講義でも説明があるので、きちんと確認してください。

●教科書・参考書使用の有無や何を学ぶべきかが、講義を通じて知らされます。参考書等は、ひとまず図書館で手にして、その内容を確認し、必要に応じて購入するとよいでしょう。

科目名	新 行政学 旧 行政学	担当者	〇〇〇〇	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	4
【授業概要】									
授業目的	行政改革、すなわち時代に忠じた行政活動を行うための組織改革や政策変更や権限と財源の再配分等の理論や歴史や制度あるいはそのあるべき内容や方向性などについて、学生自身の考えを確立させる。								
到達目標	行政改革の必要性やその目標とすべき改革の内容についての自分の考えを確立する。								
履修条件	講義では、実際の行政も扱うので、一般紙を毎朝読んでおくこと。								
授業方法	原則として講義形式。時事問題や行政上の常識や講義内容の理解などに関する小テストも時折実施する。								
準備学習	教科書の必要事項は読んでおく。日本や諸外国の行政の実情や問題点等にきちんと目を通しておく。								
成績評価	種別	割合	評価基準						
	筆記試験	60%	大きな問題1題と、項目の説明を問う小テスト4問を出題する。大問題を60%、小テストを40%で評価する。内容により加点する場合あり。						
	定期試験								
	レポート試験								
平常評価	40%	前期レポートと出席と小テストを総合して評価する。							
教科書	『□□□□』×××× △△出版								
参考書	必要に応じて講義の中で紹介する。								
【授業区分】									
区分	授 業 内 容	区分	授 業 内 容						
1	ガイダンス授業：三種分立論と五種分立論	16	ガイダンス授業：前期内容の整理と再確認						
2	歴史と行政Ⅰ：take offの原理、時代と政治・行政	17	政策過程と企画立案Ⅰ：政治と行政の役割						
3	歴史と行政Ⅱ：ドイツ官房学、警察学、行政学	18	政策過程と企画立案Ⅱ：予算編成、予算の機能						
4	歴史と行政Ⅲ：アメリカ合衆国の誕生と行政	19	行政組織の基礎理論Ⅰ：官僚制度Ⅰ、ウェーバーの理論						
5	歴史と行政Ⅳ：ジャクソンアンドモタラシー	20	行政組織の基礎理論Ⅱ：官僚制度Ⅱ、官僚制の逆機能						
6	歴史と行政Ⅴ：アメリカ行政学	21	組織の設計：ライン部門とスタッフ部門						
7	行政学の枠組みⅠ：行政学のアイデンティティ	22	公務員制度と人事行政Ⅰ：近代国家の公務員制度						
8	行政学の枠組みⅡ：行政システム論と意思決定	23	公務員制度と人事行政Ⅱ：人事院と人事委員会						
9	近代国家と行政システムの発展Ⅰ：戦前日本の行政	24	組織の管理運営Ⅰ：リーダーシップ・調整・計画						
10	近代国家と行政システムの発展Ⅱ：古制改革と再改革	25	組織の管理運営Ⅱ：管理活動の動態						
11	現代日本の行政システムⅠ：議院内閣制と大統領制	26	政策の実施：行政指導と行政手続法						
12	現代日本の行政システムⅡ：省庁と行政委員会・審議会	27	政策評価と行政責任Ⅰ：内在的責任と外在的責任						
13	現代日本の行政システムⅢ：グレーゾーンと行政改革	28	政策評価と行政責任Ⅱ：情報公開、外部機関による監視						
14	日本の行政改革Ⅰ：実例とその評価1	29	日本の行政改革Ⅲ：実例とその評価3						
15	日本の行政改革Ⅱ：実例とその評価2	30	日本の行政改革Ⅳ：実例とその評価4						

●毎時間どのような項目に関して事前学習をして参加し、何を理解すべきなのか書かれています。教科書の項目と比較しながら要点を理解するようにしてください。

授業の形態と受講

1 講義

講義に取り組む姿勢

講義は、教員が学説や物事の意味について、板書や映像機器などを活用しながら、主に口頭で説明する教育方法です。大学の授業で最も多い形態といえます。

高校までの学習は、教科書の内容や教員の説明を正しく理解し、記憶することが中心であり、これは学習上、大切なことです。しかし、大学での学修は、それにとどまりません。講義では、教員が自らの研究を基礎として、さまざまな前提や立場から専門的な理論や学説を論述していきます。そのため、講義には担当教員の考え方、見方が大きく反映されるのです。

従って、受講する学生も講義内容をしっかりと把握する一方で、真意をよく理解せず受け入れるのではなく、その論理や論旨の妥当性について自分なりに考え、検証していくことが求められます。こうした学びの姿勢が、やがて自らの頭で考え、自らの言葉で発言し、自らが物事を判断していく能力を養うことにつながります。これも大学の講義の大切な目的といえます。



講義の様子。

講義科目に限らず、演習

や実験・実習・実技科目でも「出席する」ことは前提条件です。また、授業に主体的に取り組む上での最も基本的な姿勢として、始業時間に遅刻せず出席するよう努めましょう。

ノートの取り方

講義の進め方は、教員によって異なります。授業はシラバス*に従って進められることが原則ですが、受講生の理解度や質問に対応するため、進度等の一部が適宜変えられることもあります。講義では学術用語も出てくるでしょう。そこで、大切なのがノートの取り方です。ノートには、板書だけではなく、教員が話したことを書き取ることも大切です。講義の要点、重要なキーワードを逃さずノートに書いていきましょう。後で見返したときに、講義の内容を思い出せるようなノートづくりが求められます。

良いノートをつくるための方法を一つ紹介します。授業中にはノートの上半分だけを使い、下半分には、後で整理し、まとめたものを記載するようにします。また、疑問点が出てきた場合には、後で教員に質問できるように、そこに記述しておきます。

この作業は、授業の内容について鮮明な記憶のあるその日のうちに済ませておくことがベストです。こうしておけば、復習にもなり、講義内容が整理された良いノートが残せるようになります。



シラバス

p.15「シラバスの活用」
参照。

レポートの書き方

レポートには、文系、理系、医歯薬系などの学問分野によりさまざまな形式がありますが、パソコンのワープロソフトを使用して作成することが主流となっています。

書式としては、A4判の横書きで1ページを1行40字30行にすれば、1ページ分の字数が1200字で400字詰め原稿用紙3枚分となり、指定された字数・枚数などの計算が容易です。

書き方の参考書としては、本学文理学部の小笠原喜康教授の著書『新版 大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書）をお勧めします。同書には、現地調査型、形式実践研究報告型、アンケート調査報告型、文献調査報告型、テーマ論証型などのレポートの書き方が具体的に示され、注釈、引用文献、参考文献の表記法も丁寧に解説されています。

●現地調査型レポート

執筆の基本項目を紹介します。

1. 調査の課題

- ①調査の目的（何のために）
- ②調査の背景（なぜ）

2. 調査の概要

- ①調査対象 ②日時・場所等
- ③調査方法 ④調査の重点項目

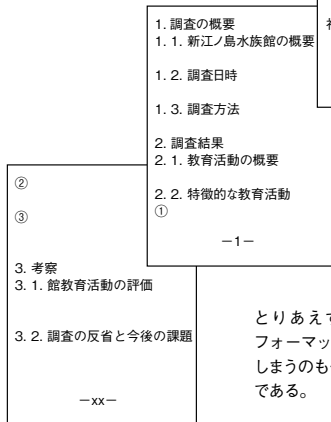
3. 調査の内容

- ①調査結果の概要
- ②個々の調査結果報告

4. 調査の考察

- ①調査のまとめと考察 ②調査の反省と課題

【レポート構成図】



とりえずこうしたフォーマットを作ってしまおうのも一つの方法である。



井上浩一 先生
博物館学概論（金曜2限）
レポート

テーマ
新江ノ島水族館の教育活動

社会文化学部・文化環境学科
0807345 小笠原喜康
2009.6.16 提出

5. 調査の資料

- ①予備収集資料 ②現地収集資料

現地調査は、学問領域を問わず広い分野で行われます。こうした基本の学びは大切なことです。

●テーマ論証型レポート

まず結論を述べ、その上で結論に至る道筋を説明することが基本です。次の執筆項目を、特に文系の学生はレポート作成の参考にしてください。

1. 序論

- ①結論 ②結論の詳説 ③論の展開概要

2. 本論

- ①問題の所在 ②主要な論点の整理
③論点の批判的検討

3. 帰結

- ①本論の要約と結論の再吟味 ②今後の課題
③文献一覧

【注釈・引用文献・参考文献の文末一括表記法】

<p>《従来型》注釈・文献の区別なく【注釈】として、通し番号順に記載。他に、【引用・参考文献】一覧を別につける。その場合、論文のページは、始めと終わりのページを記す(例:p.23-29)</p> <p>著はつけない 編・編著はつける シリーズ名</p> <p>【注 釈】</p> <p>(1) 野家啓一『物語の哲学』(岩波現代文庫 学術139)、発行年 岩波書店、2005、p.318。引用ページ</p> <p>(2) 大沢秀介『外在主義と自己知の正当化』、信原幸 弘編『シリーズ心の哲学Ⅰ 人間篇』、勁草書房、 2004、p.247。これはシリーズ名ではなく 書名</p> <p>(3) ↑同上、p.59-60。</p> <p>(4) この問題については、野家(前掲書、2005)の 第6章も参照されたい。野家は、大森の論を受け て時が時系列の中で流れずに積み重なるという 問題を論じている。</p> <p>(5) 野家、前掲書、2005、p.221。</p> <p>(6) Roberts, L. C., <i>From knowledge to narrative: Educators and the changing museum</i>, Washington, DC: Smithsonian Institution, 1997, p.34。英文の書名と雑誌名は 斜字体</p> <p>(7) Ibid., p.127。</p> <p>洋書の再引 用表記</p> <p>(8) Carney, J. D., Wittgenstein's theory of picture representation. <i>J. of Aesthetics and Art Criticism</i>, Vol.40, No.2, 1981, p.182。</p> <p>(9) Roberts, L. C., op. cit. p.78。</p> <p>(10) 鹿島徹『物語り論的歴史理解の可能性のために』、 『思想』No.954、2003.10を参照されたい。</p> <p>著名な雑誌の出版社 名はつけない</p> <p>参考文献のページ 数を入れていない</p> <p>従来型</p>	<p>《近年型》従来型と違って、引用ページの記載は本文中でおこなっている。注釈に引用文献などの記載も「同上」「前掲書」などの再引用表示も必要ない</p> <p>【注 釈】</p> <p>本文の注番号に対応して通し番号順に記載する</p> <p>1. この問題については、野家(2005)の第6章も参照されたい。野家は、大森の論を受けて時が時系列の中で流れずに積み重なるという問題を論じている。</p> <p>2.</p> <p>3.</p> <p>和文と欧文が混在する場合は、アルファベット順に表記する</p> <p>【引用・参考文献】</p> <p>Carney, J. D. (1981). Wittgenstein's theory of picture representation. <i>J. of Aesthetics and Art Criticism</i>, 40 (2): 179-185. 40巻2号の179～185ページという意味</p> <p>鹿島徹 (2003.10)『物語り論的歴史理解の可能性のために』『思想』954:6-36 954号の6～36ページという意味</p> <p>野家啓一 (2005)『物語の哲学』(岩波現代文庫 学術139) 岩波書店</p> <p>大沢秀介 (2004)『外在主義と自己知の正当化』信原幸弘編『シリーズ心の哲学Ⅰ 人間篇』勁草書房 221-267</p> <p>Roberts, L. C., (1997). <i>From knowledge to narrative: Educators and the changing museum</i>, Washington, DC: Smithsonian Institution.</p> <p>文献番号は いらない</p> <p>2行目以降を 少しさげる</p> <p>刊行年を著者名のすぐ後にもつくる 月刊誌の場合は月も表記</p> <p>近年型</p>
--	--

【従来型と近年型の引用・参考文献の書き方の例】

従来型

- Carney, J. D., Wittgenstein's theory of picture representation. *J. of Aesthetics and Art Criticism*, Vol. 40, No. 2, 1981, p. 179-185.
- ハイデッガー, M. (細谷貞雄訳)『存在と時間〈上〉』(ちくま学芸文庫)、筑摩書房、1994。
- 鹿島徹「物語り論的歴史理解の可能性のために」、『思想』、No. 954、2003. 10、p. 6-36。
- 野家啓一『物語の哲学』(岩波現代文庫 学術139)、岩波書店、2005。
- 大沢秀介「外在主義と自己知の正当化」、信原幸弘編『シリーズ心の哲学 I 人間篇』、勁草書房、2004、p. 221-267。
- Roberts, L. C., *From knowledge to narrative: Educators and the changing museum*, Washington, DC: Smithsonian Institution, 1997.
- White, H., The value of narrative in the representation of reality. in Mitchell, W. J. ed., *On narrative*, Chicago: The University of Chicago Press, 1980, p. 1-23.

近年型

- Carney, J. D., (1981). Wittgenstein's theory of picture representation. *J. of Aesthetics and Art Criticism*, 40 (2) : 179-185.
- ハイデッガー, M. (細谷貞雄訳) (1994)『存在と時間〈上〉』(ちくま学芸文庫) 筑摩書房
- 鹿島徹 (2003. 10) 「物語り論的歴史理解の可能性のために」『思想』954: 6-36
- 野家啓一 (2005)『物語の哲学』(岩波現代文庫 学術139) 岩波書店
- 大沢秀介 (2004) 「外在主義と自己知の正当化」信原幸弘編『シリーズ心の哲学 I 人間篇』勁草書房 221-267
- Roberts, L. C., (1997). *From knowledge to narrative: Educators and the changing museum*, Washington, DC: Smithsonian Institution.
- White, H., (1980). The value of narrative in the representation of reality. in Mitchell, W. J. ed., *On narrative*, Chicago: The University of Chicago Press, p. 1-23.

インターネットから入手した資料については、URL (ウェブサイトのアドレス) や記事の日付、または入手した年月日、情報提供者・管理者を次の例のように記載します。

例 竹内義晴 (2008) 「環境と進化の観点から認知物語論：物語を実現する認知メカニズム、物語の果たす機能、物語る能力の発達、物語る能力の進化について」『金沢大学文学部論集』言語・文学篇 28:1-52 <http://hdl.handle.net/2297/9719> (2009.06.27 入手)

新聞記事の表記は、「記事のテーマ」『新聞名』記事分類、発行年／月／日／曜日、朝夕刊の別、版数 (ページ)、引用段を記載します。

例 「企業献金 経済界は、やめる決断を」『朝日新聞』社説 2009/07/24/ 金・朝刊 13 (3) : 1-3 (朝刊 (3) : 間蔵Ⅱ)

通常のレポートの注意点として、次のようなことをきちんと守って作成してください。

(1) 基本事項は記載されているか。

担当教員名, 開講曜日・時限, 授業名, レポート題名, 学部・学科名, 学生番号, 氏名, 提出日

(2) 提出期限を守っているか。

(3) 体裁は整っているか。

用紙の大きさ, 書式 (字数など), ホッチキス留め
レポートには, 表紙を付ける場合と付けない場合があります。次のような例があります。

【表紙の体裁の例】

表紙を付ける場合

枚数が少ない場合は上部だけでもよい

必ずホッチキスで留める

五月女義弘 先生
日本史概論 (火曜3限) レポート

テーマ
頼朝の惣追捕使補任の問題

社会情報学部・社会学科
0807345 小笠原喜康

2009.6.23 提出

表紙を付けない場合

ここはテキストボックスを使って欄外に記載

五月女義弘 先生 社会情報学部・社会学科
日本史概論 (火曜3限) 0807345 小笠原喜康
2009.6.23 提出

頼朝の惣追捕使補任の問題

***** 本文 *****

40字×36~40行
具体的には教員に尋ねる

私の講義「英米文学概説」

文理学部英文学科教授 野呂有子



私が担当する「英米文学概説」は、1年次の必修科目で、英米文学作品の面白さ、楽しさを理解することを目的としています。そのために必要な英米の文化、歴史、教養などについても学びます。

文学の醍醐味はストーリー自体の面白さにもありますが、作品の背景となる文化や歴史を知ることによって初めて理解でき、一層面白さが増す場合もあります。

例えば、英米文学には、ギリシア・ローマ神話や旧約聖書の創世記の物語が下敷きになっているシーンがよく出てきます。英米の人々であれば幼少時からメルヘンやファンタジー、「マザー・ゲース」や『聖書物語』などになじんでいるために、そのシーンの意味するところを即座に理解しますが、日本文化の中で育っている私たちは読み過ぎてしまいがちです。

そのため、授業では『不思議の国のアリス』『ナルニア国物語』『マザー・ゲース』『シャーロック・ホームズ』といった皆さんがよく知る作品を題材に、文学の面白さをより深く味わうための素養を身に付けてもらいます。既に読んだ作品でも、見方が変わると新しい発見があることでしょう。英米文学の奥深さを感じ、新たな発見の旅に出る契機にしてください。

児童文学には作品を通して子どもが言葉学ぶことを意識して書かれたものも多く、それらは文法学習の上でも最適の教材となります。高校までに学んだ英語を「生きた文脈」の中で改めて学べば、豊かな英語表現も身に付くでしょう。

試験は自筆のノートに限り、持ち込み可としています。授業で学んだことや、教材を活用して、自ら学習してほしいからです。高校までの学習は“learn”だったかもしれませんが、大学では“study”の姿勢が大事です。教材の英文をノートに書き写して、単語を調べたり、下敷きになっている神話を読んだり、興味を持ったことをさらに自分で深めてください。

これらの作業を積み重ねることによって、自分が何に一番関心があるのかを発見し、2年次以降の専門的な学びへとつなげていってほしいと願っています。



全員で英文を音読したり、歌ったりする。

2 演習（ゼミナール）

演習での学び方

演習は、「ゼミナール」とも呼ばれる授業の形態の一つです。少人数の学生が特定のテーマについて自主的に研究し、発表や討論を行います。講義は、多人数が収容できる教室で教員の話をどちらかと言えば一方的に聴くスタイルが主流ですが、演習は、学生がより積極的に授業に参加することが前提です。自らが調査・研究した特定のテーマについて発表したり、ほかの学生の研究発表を聴いたりして、互いの発表を基に討論します。それによって、さまざまな学問的刺激を受けることができるのです。

また、こうした活動を通して教員から親しく指導を受け、ほかの受講生とより深い交流ができるのも、演習の大きな特色です。

発表の仕方や討議の方法、さらにはこれに付随する人間関係に至るまで、演習（ゼミナール）から学べることは数多くあります。ぜひ、積極的に参加してください。

演習の授業の様子。



プレゼンテーション

演習（ゼミナール）では、学生が**研究発表をする機会**が多くあります。最近のプレゼンテーションは、効率的に理解を得られるようパソコンのプレゼンテーションソフトウェアを使うことが多くなっています。無料でダウンロードできるソフトウェアもあり、マニュアル本も数多く出版されているので、使い方を学ぶことをお勧めします。

また、発表要旨とは別に、スライド画面をA4用紙1枚に6画面程度、順番に記載したものをプリントして配布資料にすると、より効果的な発表になります。

最近では、学会*でも企業内でも、パソコンを活用した発表が増えています。演習でプレゼンテーションソフトウェアを使って研究発表した経験は、卒業後にどのような道に進んだとしても役に立つはずです。この使い方をマスターしましょう。

プレゼンテーションの際には、決められた時間内に発表することが大切です。事前に、友人に聴いてもらうなどしてリハーサルを行うとよいでしょう。



学生によるプレゼンテーションの様子。

学会

学術研究者の団体。また、その会合。

ディスカッション

ディスカッションは、**互いの意見を述べ合い**、より高度な研究成果を得るために行われます。他人の意見をよく聴く姿勢を持つことが必要であり、自分の主張には、正しい論拠と論理が求められます。

私のゼミ「比較政治学」

法学部政治経済学科教授 岩崎正洋



ゼミには二つの役割があります。一つは学問の専門性を深めること、もう一つは学生の可能性を引き出すことです。

ゼミは少人数なので、何をするにしても一人ひとりの意見や行動が重要です。グループのリーダーになる機会も多いでしょう。学年混合のゼミでは、上級生は自然と下級生を引っ張る立場になります。責任は伴いますが、自分1人ではできそうもない課題を、みんなで力を合わせて達成したときの喜びは何とも言えません。また、活動を積み重ねることによって、大きな自信が得られるでしょう。

私が担当する「比較政治学ゼミ」は、世界の国々の政治や国民の意識を比較することによって、日本の政治をよくするにはどうすればよいのかを考えています。

メインの活動は二つ。一つは、選挙での出口調査です。選挙管理委員会との交渉、質問票の作成、当日の聞き取り調査、集計・分析、他大学との研究会での発表など、必要なことは全てゼミ生で分担して行います。当日は投票所の出口に立ち、年齢も職業もさまざまな人に声を掛けます。有権者と直接話すことによって、民主主義を支える選挙の重要性を肌で感じていきます。

二つめは、仮想の新党づくりのグルー

プワークです。他の学生に意識調査を行ってマニフェストを作成し、その政策が支持されるかどうかを再調査します。日本の政治がどのように進められているかを体験するのです。

グループワークでは、うまくいかないことや、失敗することがたくさんあります。「実現可能で、かつ国民に支持を得られる政策は何か」というような専門性に関わる内容だけでなく、「グループの中に協力的でない人がいる」という運営上の悩みもあるでしょう。そうした問題をゼミ生同士で話し合い、さらに、私の指導を受けながら一つひとつ克服して、活動を遂行していくのです。

ゼミを映画製作に例えると、教員は監督で、学生は役者であり、一人ひとりが輝く場です。ゼミという舞台上、自分を一回りも二回りも成長させてください。



ゼミの様子。次々と出される意見に教員がコメント。

3 実験・実習・実技

ねらいと効果

講義や演習（ゼミナール）は、研究成果や研究の対象・手法を教員が論述し、特定の研究テーマについて教員の指導の下で発表・討論することが中心となる授業形態ですが、実験・実習・実技科目では、それ以上に、学生自らの体験と行動を通して、学修の結果をより確実なものとするのが求められます。

実験・実習には、分析装置や観測機器の使い方に習熟するとともに、学生自身が分析データ・測定データを得ることにより、あらかじめ設定した仮説に対する解答を出すというねらいがあります。授業のねらいと到達目標に関する教員の説明や指示に十分に耳を傾け、特に細心の注意を払って取り組むようにしましょう。

予習とレポート

実験・実習・実技科目の授業を受ける際に最も重要なのは、あらかじめ、どのような課題について授業が行われるかを予習することです。

何が大切であるか、どういうことが危険であるか、何を修得するための実験・実習・実技であるかを事前



に知っておくと、理解も早く、事故などを未然に防ぐことができます。

また、実験・実習・実技科目では、終了後、その日のうちに



実習の授業風景。

レポートにまとめることも重要です。新鮮な記憶があるうちに記録しておかないと、次第に忘れて、レポートや論文が書けなくなってしまうからです。

実験・実習・実技科目が好きになり、良い成果が得られるようにするコツは、授業前の予習と、授業後にレポートをまとめる習慣を付けることです。

安全の確認

実験・実習・実技において絶対に忘れてならないのが、**安全の確保**です。「ハインリッヒ*の経験則」にあるように、1件の重大な事故や災害の背後には29件の比較的軽微な事故・災害があり、さらにその背景には300件のヒヤリ・ハット*が潜んでいるといわれています。つまり、重大な事故や災害を未然に防ぐには、一步間違えば事故や災害の発生に結びつきかねないヒヤリ・ハット、あるいはキガカリの段階で対処しておくことが重要です。

■ハインリッヒの経験則



ハインリッヒ

Herbert William Heinrich
(1886-1962年)

アメリカの数学者。損害保険会社の技術・調査部で安全技師を務めた。労働災害の発生確率を統計的に解析し、1929年に発表した論文で経験則「ハインリッヒの法則」を提唱した。

ヒヤリ・ハット

幸い事故には至らなかったものの、一瞬ヒヤリとしたりハットとしたりしたこと。

事故・災害は決して不測の事態ではなく、配慮の不足から生じたと考えるべきなのです。

実験・実習・実技の授業では、指導教員やティーチング・アシスタント（TA）*、スチューデント・アシスタント（SA）*による注意事項の説明に十分に耳を傾け、常に細心の注意を払ってください。体調が十分でないことに起因する事故も起こり得るので、睡眠不足に留意し、体調管理に気を付けることは、事故を防ぐ観点から重要です。

安全面から、実験・実習・実技それぞれの授業内容に適した服装で受講してください。実験では白衣、場合によっては実験用保護メガネ・手袋等の着用が必要です。野外で実習を行う場合には、雨、日差し、虫よけなどの対策を万全に行い、調査にふさわしい靴の着用を心掛けましょう。また、事故を防ぐため、出水や雷など天候の急変に対する指導教員の指示には、迅速に従ってください。

グループ行動

実験・実習・実技の授業は班単位で進められることが多く、自ら率先して参画するとともに、グループの一人として役割を分担し、協力し合うことが重要です。実験器具・観測機材などの準備と片付けも積極的に行い、授業中には記録をこまめにとるようにしましょう。

河川環境調査の実習風景。



ティーチング・アシスタント（TA）

科目担当教員の指示により、学部の実験・実習等の教育補助を行う業務の総称、もしくはその担い手である大学院学生。

スチューデント・アシスタント（SA）

コンピュータ科目や実験・実習科目等のほか、受講に際しての留学生への対応や、ハンディのある受講生への学習補佐を行う学部学生。

私の実習「建築設計演習Ⅰ・Ⅱ」

工学部建築学科准教授 浦部智義



大学の学びで大切なのは、知識や技術の修得だけでなく、課題や問題点に対して自分なりの考えを導き出すことです。実験・実習・実技科目は、その力を養う場になります。

私の担当する2年次の必修科目「建築設計演習Ⅰ・Ⅱ」は、学生が敷地調査から設計図を完成させるまでの建築設計の一連の流れを経験する最初の科目です。店舗兼住宅（木造）と工学部の学生寮（鉄筋コンクリート造）の設計をします。

建築設計には決まった答えはありません。建築主の要望に加え、土地の形、日当たり、道路の面し方など、さまざまな条件を考慮し、自分なりの答えを導き出す力が必要です。設計者は、1つの視点に固執せず、より良い建築物を設計するにはどうしたらよいか、柔軟に考えられるようになることが必要だと思います。

そのため授業では、何度もスケッチや模型で検討を繰り返す作業である「エスキース」を大切にしています。自分だけで考えるのではなく、教員やTA（ティーチング・アシスタント）、他の学生から意見を収集します。それらを自分なりに解釈し、自分の思う建築を図面にしていくのです。

ゼロからアイデアを生み出すのは、難

しいかもしれません。良いアイデアが浮かばないときは、有名な建築家などの設計図を分析して良いと思うところをまねるようにアドバイスしています。模倣は「アイデアのヒント」を得るのと同様です。他の建築物を自分なりに再解釈すれば、必ず自分なりの建築物を作り上げることができると思います。

授業の最後には、クラス講評会を行います。さまざまに工夫された作品が並び、他の学生の作品から大きな刺激を受けるでしょう。専門的な技術だけでなく、プレゼンテーションシートまとめ方や発表の仕方など、互いのアイデアを参考にすると、質も上がります。

疑問点や悩みがあれば、オフィスアワーを使って、教員を訪ねてください。教員の言葉がヒントになり、壁を打ち破るためのきっかけが得られるはずです。



図面を確認しながらグループで意見交換。

成績評価

1 成績評価と単位

「成績評価」の意味

「成績評価」は、履修した科目の学修成果を一定の指標に基づき評価された結果を意味しています。各科目の学修成果を「成績」として客観的に捉えることにより、これまでの取り組みを振り返り、卒業までの履修計画を立てる上で重要な参考になります。

また、教える側の教員は、授業をより効果的に展開するため、「成績評価」を通じて学生の授業に対する理解度や参加度などを把握しています。

大学も「成績評価」の結果などを総合的に分析し、教育の質向上に努めています。

なお、「成績評価」の方法や基準は、授業科目ごとに異なり、シラバスに記載されています。しっかりと把握しておきましょう。

「単位」の意味

「単位」とは、大学における学修量を測るために数値化した一定の基準のことをいいます。大学の教育課程では、個々の授業科目ごとに設定された「単位」を積み重ねていきます。修得した単位が卒業要件を満たすことによって修了し、学位^{*}を授与されるのです。

学位

p.12「学位の授与」参照。

2 必要な学修時間

1単位の授業時間は？

授業科目の単位数は、大学設置基準^{*}で、「1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して」単位数を計算することと規定されています。

日本大学は、大学設置基準に基づき制定された「日本大学学則」により、授業科目の単位計算を次のとおり定めています。

種別	1単位に要する授業時間
講義, 演習科目	15時間から30時間までの範囲で学部等が定める時間の授業をもって1単位
実験, 実習, 実技科目	30時間から45時間までの範囲で学部等が定める時間 [*] の授業をもって1単位

* 芸術学部における個人指導による実技の授業については、15時間の授業をもって1単位とする。

※講義、演習、実験、実習または実技のうち2つ以上の方法により授業を行う場合については、その組み合わせに応じ、上表に規定する基準を考慮して学部等が定める時間の授業をもって1単位とする。

※医学部の授業科目の一部（専門教育科目、臨床実習）は、単位制によらず、時間制を採っている。

単位制は、上の表の単位時間を基礎として、授業科目の種別に応じて必要な時間数に基づく単位を定める制度です。授業科目を履修し、授業科目ごとに定められた試験等に合格すると、単位が認定されます。

大学設置基準

大学を設置し運営していくに当たり必要な最低の基準を定めた文部科学省令。

予習・復習も必須

授業科目の単位は、授業時間に加え、学生が行う予習・復習などの授業時間外学修によって構成されています。講義科目を例として説明すると、毎週1時間の授業を15週行って1単位としているため、大学設置基準で規定されている「45時間の学修を必要とする内容」を満たすには、1授業科目に対して2時間の授業時間外の学修が求められるわけです。

■講義の場合

授業時間1時間
+
授業時間外の学修
(予習・復習など)2時間
×15週=45時間の学修

〈例〉

予習	授業	復習	×15週 = 1単位
1時間	1時間	1時間	

つまり、授業時間に加え、予習・復習の時間も単位に含まれると考えられています。授業の理解を助けるために、レポートや課題などが課されることがありますが、この単位の持つ意味（単位の実質化）をよく理解し、真剣に学修に取り組んでください。課題が特に与えられなくても、履修した授業内容を自分のものにするために、予習・復習を習慣づけることが必要です。

なお、大学では、45分を「1時間」と計算しているため、90分間の1授業時間は「2時間」となります。例えば、2単位の講義科目の場合は、1授業時間（90分）の授業を15週行い、30時間確保していることから、当該授業科目の単位数として2単位が与えられる、というように考えます。

日本大学での学び

生物資源科学部動物資源科学科3年 坂上倫実



私は動物が好きという漠然とした理由で動物資源科学科を選びましたが、入学して間もなく、生物資源科学部の農場でアパディーン・アンガスという品種の黒く美しいウシに出会い、ウシを研究することに決めました。

当初は、ウシをイヌやネコと同じようにペット感覚でしか見ていませんでした。しかし、1年次に「動物資源科学概論」を履修し、その意識は大きく変わりました。ウシやブタなどの食肉が食卓に運ばれるまでの過程を描いたDVDを見て、畜産物としての動物を意識するようになったのです。

2年次には、畜産物の生産過程を体験的に学ぶ機会がありました。「動物資源科学特別実習」です。釧路の牧場に10日間泊まり込んで実習を行い、酪農の仕事の難しさを目の当たりにしました。ウシの体調を管理しながら、目標の生産量を確保するために、日々試行錯誤している牧場主の姿が印象的でした。この経験から、安全で良質なウシを生産するためにどうしたらよいか興味を持ち、ウシの飼料を研究する草地学研究室への入室を決めたのです。

1つの目標ができたため、次に何を学ぶべきか考えて主体的に動けるようにな

りました。学びがどんどん広がる面白さを感じています。

授業以外でもウシに関わりたいと思い、動物資源科学学術研究部というサークルに入りました。繁殖の研究を行ったり、学園祭で牛引きのイベントを行ったりしています。ウシについて話せる友人ができると、学生生活はより充実したものになりました。

2年次の冬には、食肉格付けの正確さを競い合う「全日本大学対抗ミートジャッジング競技会」に出場しました。私は上位入賞を果たし、オーストラリアで行われた国際大会に参加。他大学や海外の学生とウシについて語り合ったのは、刺激的な体験でした。

卒業後もウシに関わり続け、日本の霜降り牛を世界に広める仕事をしたいと考えています。



生物資源科学部付属農場での実習の様子。

※学年は取材時（2012年度）のものです。

3 GPA制度

GPAとは

日本大学では、厳格な成績評価、綿密な履修指導による卒業生の質の保証などを目的として、GPA (Grade Point Average) 制度を導入しています。GPAとは、「**成績評価基準**」(次ページ参照)に従い、授業ごとの成績評価にそれぞれ定められた係数(Grade Point)を付与して、1単位当たりの平均値(Grade Point Average)を算出する成績評価方法です。

次ページの「GPA計算式」に示されているとおり、GPAは、評価された成績とその科目の単位数が関係づけられて算出されるので、単位制の概念に照らして考えても、履修する授業科目によって求められている“学修の重み”が異なっていることが分かります。

国際的に通用性があるとされるGPAは、海外留学などの際に大学での学びを示す指標となることもあります。

履修登録→成績→振り返り

自分の学修効果を把握して、主体的に履修計画を立てることが大切です。学期末や年度初めに配布される「成績表」に示されたGPAを検証しましょう。その学期や学年における学修を振り返り、次学期や次年度の履修計画を立てる指標となります。いったん履修登録した科目は、履修中止をしない限りGPAの対象となるので、自らが責任を持って履修登録することが求められます。

このような学修プロセスを通じて、「自主創造」型人材の気風を養うことが重要です。

成績評価基準

	素点	評価	係数	内容	GPA	
判定	合格	100～90点	S	4	特に優れた成績を示したものの	対象
		89～80点	A	3	優れた成績を示したものの	
		79～70点	B	2	妥当と認められたものの	
		69～60点	C	1	合格と認められるための成績を示したものの	
	不合格	59点以下	D	0	合格と認められるに足る成績を示さなかったものの	
無判定	—	E	0	履修登録をしたが成績を示さなかったものの	対象外	
	—	P	—	履修登録後、所定の履修中止手続きを取ったものの		
	—	N	—	留学や編入学などにより、修得単位として認定になったものの		

GPA計算式

$$\frac{\left(\frac{4 \times S \text{の}}{\text{修得単位数}} \right) + \left(\frac{3 \times A \text{の}}{\text{修得単位数}} \right) + \left(\frac{2 \times B \text{の}}{\text{修得単位数}} \right) + \left(\frac{1 \times C \text{の}}{\text{修得単位数}} \right)}{\text{総履修単位数 (S+A+B+C+D+E)}}$$

※分母には、P（履修中止科目）およびN（認定科目）は含まず、GPAには算入しない。

※GPA算出の対象科目は、学科の課程修了に係る授業科目（卒業論文・卒業研究・卒業制作を含む）である。

※「成績証明書」では、合格した授業科目の成績（S、A、B、C）および認定科目（N）のみを表示する。従って、不合格科目（D）や履修登録をしたが成績を示さなかった科目（E）および履修中止手続きをした科目（P）については、「成績証明書」に表示されない。

※D評価またはE評価となった科目を再履修しない場合は、GPA算出の際、総履修単位数として分母にそのまま残るので、注意が必要。なお、D評価またはE評価となった科目を再履修した場合、累積のGPA算出の際には、最後の履修による成績および単位数のみを算入する。

※GPA制度の詳細は、学部等で配布される『学部要覧』などを参照のこと。



GPA制度と単位の実質化

GPAの計算は、成績評価とその修得単位数が関係しています。個々の授業科目の単位は、学部等のカリキュラム・ポリシーに基づき必要な学修時間等を勘案して設定されており、いわゆる“学修の重み”を表しています。また、GPAの値を求める際、分母に不合格となった科目（D評価）だけでなく履修登録をしたものの成績を示さなかった科目（E評価）の単位数も含むため、しっかりとした履修計画が必要であることが分かります。

例えば、下表に掲げた4人の学生の履修状況を見てください。4人の履修状況を比較すると、一見、CやDの評価を得ていないXさんの成績（B・A・A）が良いように見えますが、GPAの値で比較すると、4人の学生のうち最も優れているのは、Wさん（2.75）です。また、2

科目でS評価を得ているにもかかわらず、4単位の1科目を途中で受講しなくなってしまったためにE評価となり、最も低いGPAの値となったZさん（2.00）のようなケースもあります。

つまり、GPAは、授業科目によって異なる単位数が成績の重みづけとして反映された評価であること、また、履修登録をしたものの途中で受けなくなったり（所定の手続きにより履修中止した科目は除く）、不合格になったりした科目も含まれた評価であることを認識しておく必要があります。

GPA制度では、計画的な履修と着実な学修が求められます。GPAの値は、大学生としての皆さんの行動特性を表すものでもあるのです。

	○○学 [4単位]	○○論 [2単位]	○○語I [2単位]	GPA
Wさん	S	C	B	$\frac{16+2+4}{8}$
	4×4単位=16	1×2単位=2	2×2単位=4	2.75
Xさん	B	A	A	$\frac{8+6+6}{8}$
	2×4単位=8	3×2単位=6	3×2単位=6	2.50
Yさん	A	D	S	$\frac{12+0+8}{8}$
	3×4単位=12	0×2単位=0	4×2単位=8	2.50
Zさん	E	S	S	$\frac{0+8+8}{8}$
	0×4単位=0	4×2単位=8	4×2単位=8	2.00

※評価ごとの係数は、S=4、A=3、B=2、C=1、D=0、E=0

参考／半田智久2011、『成績評価の厳正化とGPA活用の深化』地域科学研究会

4 授業評価

授業評価の趣旨

日本大学では、「学生による授業評価」が、大学全体で組織的に行う教育の改革・改善活動の一環として行われています。学生の皆さんは、授業ごとに実施される授業改善アンケート調査に参加することが大切です。大学は、調査の結果を分析して、授業の問題点・反省すべき点を洗い出し、授業の改善や学修効果の向上を図るよう努めています。

さらに、「学生による授業評価」では「きちんと出席したか」など、受講生自身の授業に対する態度も合わせて問うことにしています。

学生による授業評価の意味

「学生による授業評価」のアンケートには、決められた項目だけではなく、授業の進め方や教員の授業方法について自由に記述する欄も設けられています。大学では、学生の皆さんの率直な意見や日ごろ感じていることなどに関する記述内容を、アンケート結果とともに教員に届けています。教員は、これを基に、学生の学修効果の向上に向けて、授業の改革・改善を図ります。

つまり、学生の皆さんの声によって、授業は改善されていきます。大学の授業の内容や進め方は教員だけの考えで決められるのではなく、そこに**学生の意見が反映され、授業の改革・改善が行われていく**わけです。この点に「学生による授業評価」の意味があるのです。

図書館の活用

1 図書館の活用場面

図書館は知の泉

大学図書館は、授業の準備や復習を行ったり、レポートや論文を書く際の学習支援を受けたりするところです。

インターネット上の情報は調べものの手掛かりを得るには好都合ですが、信頼性の低い情報が多いのも事実です。一方、学術研究成果が発表される学術雑誌^{*}に審査を経た上で掲載される論文や記事は、学術的に価値が高く、レポートや論文を書くには、こうした信頼性の高い学術情報を利用する必要があります。

図書館には、レファレンスブック^{*}などがあります。使い方が分からなければ、カウンターで図書館員に聞いてみましょう。日本大学の学生は全学部の図書館の利用が可能です。学生証を提示し、カウンターで手続きを行えば入館できます。また、検索システム、学部間での各種相互サービス等も充実しています。図書館を上手に利用しましょう。

大学は知識の体系を学ぶ場所です。大学図書館には、過去からの知識の蓄積があります。従来の印刷媒体資料だけでなく電子ジャーナル^{*}やデータベースなど、信頼性の高い電子資料もあります。ぜひ、大学図書館を使いこなしてください。

学術雑誌

学会誌など、査読性のある（論文の価値を専門家が調べる過程のある）雑誌。同じ分野の研究者コミュニティにより評価された、目新しく、独自性のある学術情報が掲載されている。

レファレンスブック

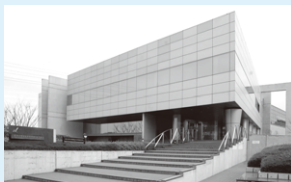
特定の知識・情報について調べるための図書。各項目ごとの簡潔な説明が一定の体系順に配列しており、求める知識・情報を容易に探し出せるようになっている。

電子ジャーナル

従来、紙の媒体で刊行されている雑誌を電子的な手段で提供するもの。特に、学術雑誌を電子化し、パソコン上で見られるようにしたものが広く流通している。学内（一部学外）からの利用が可能で、速報性に優れているのが利点。

各学部の図書館

■総合学術情報センター



開館時間 平日/10:00~17:00
土曜日/10:00~12:00

■法学部



開館時間 平日/9:00~22:00
土曜日/9:00~21:00

■文理学部



開館時間 平日/9:00~20:00
土曜日/9:00~19:00

■経済学部



開館時間 平日/9:00~20:00
土曜日/9:00~17:00

■商学部



開館時間 平日/9:00~20:30
土曜日/9:00~18:30

■芸術学部 (江古田)



開館時間 平日/9:00~21:00
土曜日/9:00~17:00

■芸術学部 (所沢)



開館時間 平日/9:00~20:45
土曜日/9:00~17:00

■国際関係学部



開館時間 平日/9:00~20:00
土曜日/9:00~17:00

■理工学部（駿河台）



開館時間 平日／9：00～21：00
土曜日／9：00～17：00

■理工学部（船橋）



開館時間 平日／9：00～21：00
土曜日／9：00～17：00

■生産工学部（津田沼）



開館時間 平日／9：00～20：00
土曜日／9：00～17：00

■生産工学部（実硯）



開館時間 平日／9：00～18：00
土曜日／9：00～13：00

■工学部



開館時間 平日／9：00～20：00
土曜日／9：00～15：00

■医学部



開館時間 平日／9：00～22：00
土曜日／9：00～22：00

■歯学部



開館時間 平日／9：00～21：00
土曜日／9：00～18：00

■松戸歯学部



開館時間 平日／9：00～21：00
土曜日／9：00～18：00

■生物資源科学部



開館時間 平日/9:00~21:00
土曜日/9:00~18:00

■薬学部



開館時間 平日/9:00~19:00
土曜日/9:00~18:00

開館日・休館日は
ウェブサイトで確認

各図書館の詳細や開館スケジュールは
ウェブサイトに掲載されています。



各図書館のページで、
それぞれの学部の「ス
ケジュール」をクリック
すると、カレンダー形式
で確認できます。

図書館で利用案内を入手

各図書館では、図書館
の利用案内を配布して
います。フロアガイド
や資料の探し方が載っ
ているので、入手して
おきましょう。



所属学部以外の学部の図書館を利用することもできます。詳しくは、所属学部の図書館カウンター
でお尋ねください。

2 日本大学蔵書目録横断検索システム

他大学の蔵書も検索可能

どのような図書や雑誌がどこの学部の図書館にあるのかを簡単に調べられるのが、「日本大学蔵書目録横断検索システム^{*}」です。総合学術情報センターおよび14学部図書館、3大学院独立研究科図書室が所蔵する約570万冊の資料を一括して検索できます。また、CiNiiBooks^{*}にチェックを入れれば、全国の大学図書館の蔵書も検索可能です。本システムのほか、各学部図書館のウェブページからもアクセスできます。

3 オンラインデータベース・電子ジャーナル

電子資料を一括で検索するシステム

学内のパソコンからインターネットを介して、新聞記事や雑誌論文、電子ブックを検索し、全文一覧やその結果を印刷できるのが「オンラインデータベース・電子ジャーナル^{*}」です。文献検索には、特に、国立情報学研究所^{*}の「GeNii 検索」「CiNii 検索」、国立国会図書館^{*}の「NDL-OPAC 検索」が有用です。

ここでは、日本大学全体で利用できる約60種類の電子資料（データベース・電子ジャーナル・電子ブック・電子新聞）のリンク先がまとめてあります。例えば、EBSCOhost Integrated Search は複数の電子資料を横断検索するためのシステムです。Find e-Journal は電子ジャーナルタイトルのリンク集で、閲覧したいタイトルが決まっている場合に便利です。ただし、どちらも出力結果の一部には、提供元の事情により全部のフルテキストが表示されないものがあります。

日本大学蔵書目録横断検索システムのURL

<http://nucs.cin.nihon-u.ac.jp/hbs/index.html>

CiNiiBooks

国立情報学研究所によるインターネット上の横断検索サービス。全国の大学図書館等が所蔵する図書・雑誌の所在情報を検索することができる。

オンラインデータベース・電子ジャーナルのURL

<http://www.nihon-u.ac.jp/affiliate/institute/library/journal/index.html>

国立情報学研究所

情報学の総合的研究とともに、学術情報の流通のための基盤整備を推進する。文部科学省の大学共同利用機関。通称NII（エヌアイアイ）。

国立国会図書館

国会の図書館であると同時に、日本で唯一の国立の図書館。日本国内で出版され、納本された出版物が保存されている。東京本館は永田町にある。

ほかにも、特定の学部だけで利用できるデータベースや電子ジャーナルがあるので、詳しくは所属の学部図書館に尋ねてください。

4 文献複写の相互サービス

図書を取り寄せや複写も可能

読みたい論文や図書等が所属する学部図書館にない場合、他学部や他大学の図書館から図書を借りたり、論文のコピーを取り寄せたりすることができます。

文献複写の相互サービスの詳細は、図書館のレファレンスカウンター*に相談してください。

5 デジタル・ミュージアム

普段は閲覧できない貴重な資料を公開

デジタル・ミュージアム*では、本学所蔵の貴重な資料をウェブサイトで公開しています。

◎歌舞伎番付デジタルアーカイブ（総合学術情報センター）

顔見せ、絵^{えづくし}尽、錦絵、冊子等、江戸時代の歌舞伎を中心とした演劇関係資料のデータベース。

◎アジア歴史資料デジタルアーカイブ／日本語日本文学デジタルアーカイブ（文理学部）

ハルビン絵葉書、清国漂流図／古典籍資料および近現代演劇資料のうち5点各々を研究対象にしたデータベース。

◎ Ovid's Metamorphoses（芸術学部）

古代ローマの作家オウィディウスの著作のうち、本学所蔵の16～17世紀の図書2点を研究対象にしたデータベース。

レファレンスカウンター

図書館利用者が学習・研究・調査のために必要な資料や情報を求めた場合に、資料の検索の援助、資料の提供や回答をするなど、利用者と資料とを結びつける業務を受け付ける窓口。

デジタル・ミュージアムのURL

<http://nurb.cin.nihon-u.ac.jp/kabuki/top.htm>

快適な学修環境の整備

人権侵害のない学修環境維持のために

日本大学では、「人権侵害防止ガイドライン」や「セクシュアル・ハラスメント*防止に関する指針」などを定め、基本的人権を侵害するような差別的取り扱いにより、個人の尊厳を不当に傷つける行為を禁じています。人権は難しいものではなく、誰でも心で理解し、感じることでできるものです。人権について正しく理解し、一人ひとりの人権を尊重する意識と行動により、人権侵害のない快適な環境を保っていきましょう。

主な人権侵害には、次のようなものがあります。

- 性・国籍・民族・人種・出身地・信条・性的指向・身体・健康などに関する差別
- セクシュアル・ハラスメント
- アカデミック・ハラスメント*
- アルコール・ハラスメント*
- インターネットを利用した誹謗・中傷
- ストーカー行為、デートDV* 等

人権侵害を「しない」「させない」ために

- 誤った知識や偏見、差別をなくし、互いの人権・人格を尊重することが重要です。
- 相手が拒否し、嫌がっていることが分かった場合には、同じ言動を繰り返さないようにします。拒否さ

セクシュアル・ハラスメント
相手の意に反する性的言動により、相手に不快感や不利益を与え、学修環境を困難にさせること。略してセクハラ。

アカデミック・ハラスメント

教育・研究上の優越的な地位や権限を利用して行われる不適切で不当な言動・指導・待遇により、相手の学修環境を困難にさせること。

アルコール・ハラスメント

飲酒やイッキ飲みの強要、意図的な酔いつぶし、飲めない人への配慮を欠くこと、酔った上での迷惑行為（暴言・暴力、ひんしゆく行為、セクハラ等）。

デートDV

交際相手を怖がらせたり、傷つけたりして、自分の思いどおりに動かそうとする態度や行動。



“自主創造”型の学びを 体現するために

大学での“学び”には、学生、教員、職員が関わっています。本書の改訂にあたり、三者による意見交換会が行われました。テーマは「学生から見た『日本大学FDガイドブック2012』」と「“自主創造”ってなに？」の2つ。特に、参加した学生の皆さんからは、使い手としての活発な意見が出されました。

■日時：平成24（2012）年7月19日（木）午後4時～午後6時

■場所：日本大学桜門会館（東京都千代田区）

■プログラム内容： 1. 挨拶・主旨説明
2. 参加者紹介
3. 意見交換会〈テーマA〉学生から見た『日本大学FDガイドブック2012』
4. 意見交換会〈テーマB〉“自主創造”ってなに？

■参加者：

学生	法学部1年	石島成量	教員	全学FD委員会	職員	学務部教育推進課	
	文理学部1年	高柳真由		教育情報マネジメントワーキンググループ		課長 並木洋明	
	経済学部1年	伊藤雄太		リーダー・文理学部教授		森 和紀	課長補佐 品田泰崇
	法学部4年	伊東里紗		メンバー・医学部准教授		藤田之彦	主任 大嶽龍一
	生産工学部4年	前田淳志		メンバー・通信教育部教授		関根二三夫	

※役職・資格・学年等は、平成24（2012）年7月現在のものです。

テーマA 学生から見た『日本大学FDガイドブック2012』

学生生活に重要な内容の本

テーマAでは、本書の改善点を探るため、まず、1年生の3人に感想を尋ねました。経済学部1年の伊藤雄太さんは、「サイズが小さくてバッグに入り、電車の中でも読めるのがいいですね」と評価。他の2



経済学部経済学科1年
伊藤雄太さん

人も同意見でした。ただし、法学部1年の石島成量さんは、「文字が多く、最初はあまり読む気がしませんでした。読み込むと、学生生活に必要なことが書いてあると分かりますが、とっつきにくくて、せっかくの本が損をしていると思います」と指摘。これに応え、文理学部の森和紀教授は、「編集途中で、イラストを入れたり、写真を増やしたりしましたが、さらに検討したいと思います」と、改善の意向を示しました。

内容については、伊藤さんから「レポートの書き方が詳しく説明してあり、助かっています。高校時代にレポートを書くことはあまりなかったの」という話があり、本書が活用されている様子うかがえまし

た。一方、自分で履修科目を決めるのが大変だったという文理学部1年の高柳真由さんから



文理学部化学科1年
高柳真由さん

は、「高校と大学では、学びの形態が全く違うので戸惑いました。時間割の組み方の具体例を示してほしい」という要望が挙がりました。通信教育部の関根二三夫教授は、学部・学科によって履修制度が異なるため、全学共通の冊子に凡例を掲載するのは難しい面があると答えた上で、「本書にもありますが、オフィスアワーを利用して教員に質問したり、学部の窓口で職員に相談したりできることを、新入生にもっとアピールすべきですね」と対応策を述べました。

また、本書の活用状況を知るため、学務部教育推進課の品田泰崇課長補佐が「本書をどの



通信教育部
関根二三夫教授

ような形で手にしましたか」と尋ねたところ、学部によっては、入学時に渡された大量の配布資料に挟まれていただけで、本書についての説明がなかったことが判明。高柳さんは、周りの学生が本書をあまり活用していないことに触れ、「例えば、授業で『レポートの書き方はFDガイドブックを見てください』と言うだけでも、活用度は違うのではないのでしょうか」と提案しました。

先輩の言葉で必要感を増幅

4年生の2人には、学生生活を振り返りながら本書を読んでもらい、意見を聞きました。生産工学部4年の前田淳志さんからは、本書を使用する1年生に対して、「GPAの説明が詳しく書いてあるので、ぜひ



学生
法学部政治経済学科4年
伊東里紗さん

読んでほしいと思います。履修を中止すればGPAに影響はないのに、それを知らずに損をしている学生は大勢いますから」というアドバイスがありました。これに同意見だという法学部4年の伊東里紗さんは、「GPAの数値が高ければ、奨学金を受けられたり、大学院進学に有利になったりする説明を加えられないでしょうか」と提案。1年生が学修にもっと主体的に取り組めるような目標の提示は重要だと強調しました。

これに対し、学務部教育推進課の大嶽龍一主任は「GPAに加え、学修の目標の一つとなるよう、卒業時に取得できる『学位』の紹介をしています」と読みどころを1年生に説明。また、同課の並木洋明課長から

は、「大学での学びが学生生活や卒業後

にどう役立つのか、先輩や卒業生の声を加えるのはどうでしょう」と提案がありました。すると伊東さんから、「重要な箇所には先輩のコメントがあると、1年生は必要性を感じると思います」と具体的な意見も出されました。

医学部の藤田之彦准教授は、「履修制度や成績評価については、2・3年生になって気付いても手遅れということがあります。初年次教育で周知を徹底させるとともに、自分の学習がどんな成果を得られるのか、目標を明確に示す重要性を強く感じました」と発言。学生の意見を通じて、教職員が本書の意義を改めて確認する場となりました。



教員
医学部
藤田之彦准教授

テーマB “自主創造” ってなに？

将来に向けて自ら考えること

テーマBでは、学生が日本大学の教育理念“自主創造”をどのように捉えているか、意見を聞きました。

最初に発言したのは伊藤さん。「自分が



学生
生産工学部電気電子工学科4年
前田淳志さん

考える“自主創造”とは、自分のどのような将来を創っていくかを自主的に考えることです」

と説明し、大学では高校とは異なり、あらゆる場面で自主性が強く求められると語りました。

就職活動を終えたばかりの伊東さんは、自分の将来を自らの手で切り開いた経験から「“自主創造”の精神で大学生活を過ごしたことによって、コミュニケーション能力や自主性が身に付いたと思います」と話しました。就職活動の際、日本大学の教育理念が大きな武器になったようです。

将来の目標を明確に持つ必要性を説く伊藤さんと伊東さんに対して、前田さんは、後輩に向けて「入学した時に明確な目標が

なくても、興味や関心のある授業を受けながら自分が何を学びたいか模索できる環境が日本大学にはあります」と話しました。

学生の考える“自主創造”が語られる中、伊東さんから「教職員の方が考える“自主創造”はどのようなもののでしょうか。学生が自由に学びすぎると、指導しにくいのでしょうか」という質問がありました。森教授は「私は学



文理学部
森和紀教授

修そのものが“自主創造”であるべきだと思っています。私たちは自らの目標に向かって学ぶ学生を歓迎しています。極めて知的な教育理念ではないでしょうか」と回答。藤田准教授は「医学部では学年制をとっています。高校のような仕組みで、入学時から『医師国家試験に合格する』という卒業時のゴールが決まっています。学びの自由度が少ないのが気掛かりです」と語り、学生が自ら考えたり、自己主張したりする場を作りたいと提言しました。

関根教授からは「日本大学は学生の個性を伸ばす大学です。我々も型にはまった教育をせず、学生の良いところを磨きたい」という発言があり、学生の自主的な学びを支援していく教員側の力強い姿勢を感じることができました。

先輩の姿から学ぶ理念の意味

学務部教育推進課の品田課長補佐から、「本大学の教育理念と目的を“自主創造”と再定義したのは平成19年6月のことです。“自主創造”は学生の皆さんに、どの

程度、認知されているのでしょうか」と質問がありました。学生の多くは、入学式で耳にした



学務部教育推進課
品田泰崇課長補佐

り、大学の資料などで言葉を目にしたりしたことはあるものの、特にその意味を考えたことはありませんでした。ただ、一人ひとりが大学生活の中で、“自主創造”の精神を感じているようです。

前田さんは、「あらためて“自主創造”の意味を説明されると、学生はそれを強制されているという意識になります。大学の雰囲気や先輩の姿から、自然に学べば良いのではないのでしょうか」と語りました。石島さんも「“自主創造”という教育理念は、とても社会的だと思います。学生自身が“自主創造”の答えを見つけられれば良いと思います」と賛同。



法学部政治経済学科1年
石島成量さん

伊藤さんは「日本大学のロゴマークの下に“自主創造”と書いてあるのは良い」と話しました。学生の目に触れるところに教育目標があると、折に触れてその意味を自問できるようです。

最後に、ファシリテーターを務めた森教授が「学生に“自主創造”を求めると同時に、教職員はそれを養えるような土俵を作っていきたい」と意見交換会を締めくくりました。教職員・学生双方から建設的な意見が出され、意義深い意見交換会となりました。

企画・編集

全学FD委員会教育情報マネジメントワーキンググループ

- リーダー 森 和紀（文理学部教授）
- メンバー 吉野 篤（法学部教授）
- 藤田之彦（医学部教授）
- 甲斐 藏（生物資源科学部教授）
- 伴野和夫（薬学部教授）
- 関根二三夫（通信教育部教授）

アシスタント

- 品田泰崇（学務部教育推進課課長補佐）
- 大嶽龍一（学務部教育推進課課長補佐）

このガイドブックは、本文などに記載した方々をはじめ、多くの方々や関係部署の御協力により作成されています。この場をお借りして、感謝申し上げます。

※本ガイドブックに記載した役職、資格、学年等については、平成25（2013）年1月現在のものです。

『日本大学FDガイドブック』に関する新たなアイデアや御意見などがありましたら、学務部教育推進課（adm.aca.eps@nihon-u.ac.jp）へお寄せください。

日本大学FDガイドブック

—“自主創造”のための Learning Guide —

発行日 平成25（2013）年4月1日 第2版

発行者 日本大学FD推進センター

センター長 牧村正治

〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24

電話：03-5275-8314 FAX：03-5275-8315

e-mail：adm.aca.eps@nihon-u.ac.jp

所管部署：日本大学 本部 学務部教育推進課

本書に掲載した文章、写真、イラスト、図版等の無断転載・複製を禁じます。
Copyright ©Nihon University 2013 All Rights Reserved.

